

気象変動を意識したコンパクトで丈夫な稲づくり 令和7年産米の収量向上及びコシヒカリ1等級比率90%の達成！

1 令和6年産の作柄（収量構成要素）

	穂数	1穂籾数	m ² 籾数	登熟歩合	千粒重	作柄収量
早生 (こしいぶき)	やや少～並	並	やや少～並	やや不良	並	やや不良 (540kg/10a)
中生 (コシヒカリ)	やや少	並	やや少	やや不良	並	やや不良 (450kg/10a)
晩生 (新之助)	やや少～並	並	やや少～並	やや不良	並	並 (500kg/10a)

2 作柄に影響を及ぼした要因

育苗期間の高温により苗質やや不良、ワキの発生により生育停滞、その後茎数は確保しましたが、茎質不良のため、7月の低日照や8月下旬の強雨により、近年になく倒伏程度が大きくなりました。結果として、穂数やや少、登熟歩合やや不良となり、収量が減少し、下越地域の作況指数は97となりました。

気象	4月 高温	田植え直後 低温・強風	5月 高温	6月中旬 高温・多照	7月 高温・少照	8月下旬・9月中下旬 断続的降雨	作況指数 (下越) 97 「やや不良」
生育・管理	老化・徒長苗多	初期生育不良・植え傷み	ワキ多発生 茎数抑制	急激な茎数増 茎質不良	葉色維持・草丈急伸長	倒伏 →登熟能力低下 ⇒くず米増加	

3 品質に影響を及ぼした要因

本年のコシヒカリ1等級比率は10月末時点で76.1%となり、昨年の1.0%から回復し、平年並みの品質が確保されました。7月は高温でしたが、出穂前まで葉色が維持され、生育に応じた穂肥により品質が維持されました。主な格付け要因は、1位「除青未熟粒(11.9%)」、2位「心白粒(5.5%)」、3位「基部未熟粒(1.8%)」でした。一部地域ではカメムシによる斑点米の発生が多く見られました。

気象	7月 高温・少照	8月 高温・少照	8月下旬・9月中～下旬 強雨		コシヒカリ 1等米比率 (新潟地域) 76.1%
生育・管理	心割れ発生・カメムシ活発化 ⇒斑点米の多発	葉色維持 ⇒ <u>白未熟粒</u> の発生抑制	倒伏 →登熟能力の低下 ⇒未熟粒の増加	収穫作業遅れ ⇒除青未熟粒、 <u>胴割れ粒</u> 等発生	

令和7年産米の収量、品質の安定確保に向けた管理 ～気象変動を意識したコンパクトで丈夫な稲づくり～

1. 初期生育の確保！

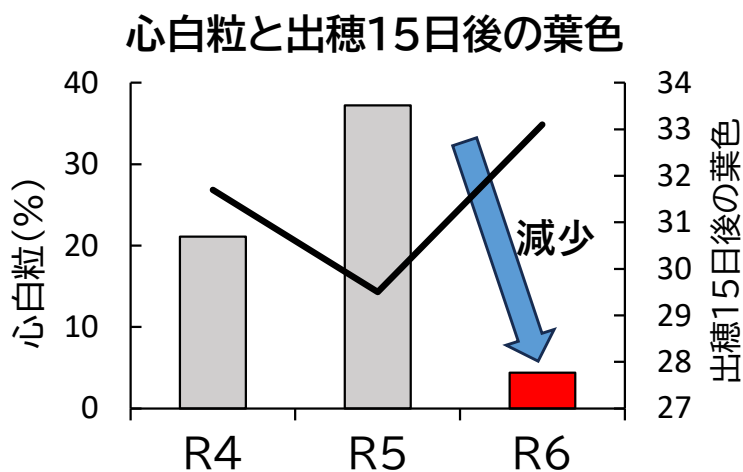
- 春先の高温に応じた管理で、徒長苗の発生抑制
- 長期間育苗の見直しによる老化苗の発生防止
- ◎ワキが発生したらすぐに水更新！7年産もワキの多発生が予想されます！
- 田植え後1ヶ月で中干しに入れるよう、下位分けつの発生を促す管理を徹底



中干しが遅れると、倒伏しやすくなります！

2. 後期栄養対策！

- 生育診断に基づく適正な穂肥施用
- ◎高温時は出穂期3日前までに追加穂肥の実施
- 出穂25日前から出穂25日後までの飽水管理で登熟向上



近年の高温でも、葉色が維持される管理で、心白粒の発生が抑制されました



3. 適期収穫！

- 籾黄化率85～90%をめやすに収穫で胴割れ粒の発生防止
- 高温時は積算温度900℃籾黄化率75～80%をめやすに早期収穫
- 丁寧な乾燥・調製（1.9mm選別や色彩選別機の有効活用）

～令和7年からコシヒカリBLの配合が変わります！～

令和元年～3年と同様の品種、構成比率になります。

品種構成

混合割合

1号：2号：3号：11号 = 10%：20%：35%：35%



特性一覧はこちら↑